

品揃えが自慢の地域一番店



多田敏広店長



開放的で入りやすいのも魅力の店舗

大阪の歓楽街・十三のにぎやかな商店街の奥に昨年10月にオープンした精米番長(大阪市淀川区)は、大阪府八尾市の老舗米穀店・多田米穀店の三支店として開業。若手後継者の多田敏広店長(32)がひとりで店を切り盛りする玄米量り売りの店頭精米店だ。店名のインパクトもさることながら、商店街随一の品揃えを誇る専門店とあって、店内に並ぶこだわり玄米を自らに来店客が途切れず、多田店長の人柄も手伝って、早くも地域一番店の様相を呈している。

店は袋詰め商品も販売するが、メインは20種類以上をラインアップする玄米量り売りだ。業務用米販売が主体の本店と違い、「ここでは一般家庭用米の小売に特化した店づ

くりを心がけている」という多田店長。店頭には毎朝、本店で調理したおにぎりや白飯、赤飯、おはぎといった加工米飯のほか、生餅、あん餅などの餅加工品も並ぶ。商店街ではこうした関連商品がとても喜ばれるそう

で、買物客に評判という。八尾市を拠点としてきた同店にとって、土地勘のなかつた十三への出店は半ば冒険的な取り組みだったが、多田店長は「十三のにぎわいある商店街は小売販売するには

理想的な場所だった」と振り返る。「将来的には精米番長を多店舗展開したいと考えているので、それにはまず八尾から距離のある十三を商圈に成功することが条件」と自らを鼓舞する。

精米番長というユニークな店名の由来は、「農家はコメ作りのプロ。われわれコメ屋は精米のプロ。それぞれの役割がつて最終的にコメを消費者に届けるという思いから名付けた」という。「精



名札を上手に活用して玄米袋で陳列

米はやはりコメ屋の腕の見せ所。コメ屋の存在価値は精米あってこそ。コメそのものの持つおいしさを精米によってより引き立たせるのがわれわれの仕事」とも語る。

多田店長の店づくりはシンプルだが、明瞭で初めて「滋賀はるみ」(特価1

kg玄米390円)の販売も行っている。はるみは

甘みも強いと評判の品種。育成地は神奈川県湘南地域で、近畿では滋賀

20種地銘柄を超える。ズラリと並ぶ商品をあれこれチョイスする顧客も多い

に掲げ、福島米を全面的に応援。安全・安心の店頭ではレア商品として「滋賀はるみ」(特価1kg玄米390円)の販売も行っている。はるみはヨーロッパの役割を果たす玄米袋に掲げるプライスカードは花屋で祝い札として使う名札を使用したもの。玄米袋を利用し

て従事していた花き業界での経験を生かした取り組みも随所にみられ、シンボルカードは花屋で祝い札として使う名札を使用したもの。玄米袋を利用していなかったもの。玄米袋を用いていない希少品とい

大阪・十二三「精米番長」

多店舗化睨み後継者が牽引

た量り売りにはピッタリだ。またプリスカード以外にもひとと言メッセージなど細かい多田店長のアドバイスも見ていて楽しい。

取扱銘柄にも光るものがある。産地にとらわれない自らの嗅覚で取り揃めました」と自作のシールを貼って自店とのつながりを促したり、現在は20種地銘柄を超える。ズラリと並ぶ商品をあれこれチョイスする顧客も多い

多田店長のメッセージも



人気の「精米番長」

福島米を全面的に応援

また袋詰精米では、店名と同じ「精米番長」がやはり注目の的だ。10kg(3380円)と福島

袋のみの商品で、ラインアップは福井ハナエチゼンの単一銘柄による2種類がある。強烈な印象を与

天のつぶ(3680円)

農家のコメを販売するま

でに糸を深めている。

「福島の農家は熱いん

ですよ」と語る多田店長

農家のコメを販売するま

でに糸を深めている。

農家のコメを販売するま

でに糸を深めている。

農家のコメを販売するま